

褐毛和種去勢牛の短期間肥育

第1報

濱 清輝・住尾善彦・木場俊太郎 (熊本県農業研究センター)

Kiyoteru HAMA, Yoshihiko SUMIO and Shuntaro KOBAYASHI :
Shortening of Fattening Period in Japanese Brown Steers

褐毛和種の場合、肥育出荷月齢は、生後24か月齢から26か月齢が一般的であるが、当研究センターに蓄積されている筋肉歩留の調査結果からは、24か月齢以降の増体は脂肪の付着が主で、長期間の肥育にメリットは少ないことが解明されている。このことから出荷の目安は24か月齢との指導がなされてきた。

ところが、ここ数年の枝肉共進会出品牛や間接検定調査牛の中に22か月齢ですでに700kgを超え、肉質も優れたものが数多く見られるようになった。

元来、あか牛は粗飼料の利用性が良いという特徴から前期粗飼料多給型の肥育方式で牛肉生産の低コスト化を図ってきたが、むしろ発育の良いものは代償性発育を期待する云々よりも、早い時期から高エネルギー飼料を与えて、短期間に肥育を仕上げしてしまうのもひとつの経済的な肥育法ではないかという考え方が出てきた。

そこで、かなり若齢である20か月齢の肥育仕上げが、可能であるのかを調査した。

1. 試験方法

生後8～9か月齢時に発育が中程度で、体高と体重のバランスが適度な褐毛和種去勢牛を素牛として選定した。それを4頭ずつの3群 (A, B, C区) に分け、各区それぞれ、2か月間、4か月間、6か月間の粗飼料主体の飼養期間を経て、濃厚飼料と稲ワラの飽食で仕上げた。

2. 結果及び考察

1) 肥育終了月齢は、A区20.3か月齢、B区19.9か月齢、C区20.5か月齢で、試験期間中に消費した濃厚飼料は、A区2,850kg、B区2,661kg、C区2,742kgとなった。なお、濃厚飼料飽食の期間はA区9か月間、B区7か月間、C区6か月間であった。

区	導入 肥育開始		肥育終了	
	273日令	343日令	616日令	
A区	育成	濃厚飼料		
	323kg	362kg	DG1.06	653kg DG1.06
B区	262日令	332日令	389日令	605日令
	育成	粗飼料	濃厚飼料	
	299kg	312kg DG1.16	DG1.09	614kg DG1.11
C区	247日令	317日令	436日令	624日令
	育成	粗飼料	濃厚飼料	
	296kg	341kg DG1.06	DG1.03	662kg DG1.04

第1図 飼養期間及び増体状況

2) 肥育終了時体重と通算DGは、A区653kg、1.06kg、B区614kg、1.11kg、C区662kg、1.04kgとなり、これから得られた枝肉の平均重量は、A区400kg、B区370kg、C区401kgであった。

3) 日格協による格付は、脂肪交雑については、「4」ランクが6頭、「3」ランクが5頭となり、特にA区は全頭が「4」ランクであった。しかし肉色が若干淡いことと、切断面が水っぽいという点でランクを下げ、総合評価では、「3」等級が7頭、「2」等級が4頭となった。ただし、A区はすべて「3」等級であったことから、このような短期間の肥育でも、脂肪交雑「4」、総合評価「3」をクリアすることは、さほど困難なことではないことがうかがえた。また、肉色、キメ締まりの改善ができれば、より高品質な牛肉の生産も可能となる。

4) 以上のことから、褐毛和種の場合、20か月から21か月齢のかなり若齢でも、ある程度の肉質を伴った枝肉の生産が可能であることがわかった。

第1表 飼料摂取量 (kg/頭)

	イタリアン サイレージ	配合飼料	稲ワラ	TDN	DCP
A区	0	2,850	384	2,182	376
B区	777	2,661	369	2,193	369
C区	1,580	2,742	328	2,391	398

第2表 肉質の評価

No.	歩留 等級	ロース芯 面積(cm ²)	肉質等級 脂肪交雑 肉色	キメシマリ	格付
1	A	49	4	3	A-3
2	B	52	4	3	B-3
3	A	54	4	4	A-3
4	A	48	4	3	A-3
5	A	43	3	3	A-2
6	A	47	3	3	A-2
7	A	49	3	2	A-2
8	A	55	4	3	A-3
9	A	53	3	3	A-3
10	A	47	3	2	A-2
12	B	46	4	3	B-3